

実験動物科学シンポジウム

Symposium on Laboratory Animal Science

実験動物科学シンポジウムはこれまで3回開催され、4回目が今年12月11日に岡山実験動物研究会との主催で計画されています。シンポジウムの開催に至った経緯について見ると、(公社)日本実験動物学会と疾患モデル学会との統合(平成19年5月24日)の後、疾患モデル学会のこれまでの学術活動を踏まえて、疾患モデルに関連したシンポジウムなどの新たな企画を検討することになりました(統合合意書より一部抜粋)。具体的には、(公社)日本実験動物学会の学術集会委員会がシンポジウムの開催、企画を提案し、ナショナルバイオリソースプロジェクトあるいは地区研究会などと主催・共催で行うことになったものです。なお、このシンポジウムは学術集会委員会との緊密な連携の下に企画するものとしていきます。

これまで開催されたシンポジウムの概要について紹介します。

第1回シンポジウム

第6回 ラットリソースリサーチ研究会

日時：平成25年2月1日(金)13:00～17:30

会場：京都大学百周年時計台記念館 国際交流センター

主催：公益社団法人 日本実験動物学会

第6回 ラットリソースリサーチ研究会

参加費：無料

懇親会：国際交流ホール

申込方法：事前の参加登録必要 専用の申込みフォームにより連絡

連絡先：京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設
ナショナルバイオリソースプロジェクト「ラット」

プログラム

【ラットリソース】 座長：吉本 淳(理化学研究所)

1. 第3期ナショナルバイオリソースプロジェクト「ラット」

庫本高志(京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

2. ヒト人工染色体を用いたモデル動物研究
押村光雄(鳥取大学大学院医学系機能再生医科学専攻)

3. 動物生殖細胞の凍結保存技術の開発研究
枝重圭祐(高知大学教育研究部総合科学系生命環境医学部門)

【ラットリサーチ】 座長：横井伯英(神戸大)

4. 実験用ラットの歴史について

芹川忠夫(京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

5. ラットを用いた睡眠研究

裏出良博((財)大阪バイオサイエンス研究所分子行動生物学部門)

6. LEC ラット研究—温故知新—

安居院高志(北海道大学大学院医学研究科実験動物学教室)

【疾患モデル】 座長：森 政之(信州大)、
庫本高志(京都大)

7. 先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究コンソーシアム

吉田進昭(東京大学医科学研究所 システム疾患モデル研究センター)

8. 遺伝子改変動物を用いた生殖メカニズムの解明

伊川正人(大阪大学微生物病研究所附属感染動物実験施設)

9. 遺伝子改変ラットの開発研究 真下知士
(京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

10. 遺伝子改変による抗病性動物の作製—マウスからブタへ—

小野悦郎(九州大学大学院医学研究院附属動物実験施設)

第2回シンポジウム

新たなライフサイエンス研究の展開—鳥類リソースの整備と活用に向けて—

日時：平成25年12月9日(月)13:00～17:30

会場：名古屋大学 野依記念学術交流館

参加費：無料

主催：公益社団法人日本実験動物学会

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニワトリ・ウズラ」

共催：名古屋大学大学院生命農学研究科

申込方法：自由参加、出来るだけ参加登録

懇親会：野依記念学術交流館 カフェルーム、
事前登録必要

問合せ：名古屋大学大学院生命農学研究科附属
鳥類バイオサイエンス研究センター

世話人：松田洋一(名古屋大)・高橋 智(筑波大)
・若菜茂晴(理研 BRC)

プログラム

【開会の挨拶】 八神健一(日本実験動物学会
理事長)

【鳥類リソース】

1. ナショナルバイオリソースプロジェクト
「ニワトリ・ウズラ」の現状と今後に向けて
松田洋一(名古屋大学)

【鳥類を用いた脳科学研究】 座長：吉川欣亮
(都医学研)・笹浪知宏(静岡大学)

2. 生殖を抑制する新規ホルモンの発見と研究
進展：鳥類から哺乳類への展開
筒井和義(早稲田大学)

3. モデル動物を通して明らかになった動物が
季節を感じる仕組み
吉村 崇(名古屋大学)

【突然変異リソースと疾患モデル】 座長：
庫本高志(京都大学)・村井篤嗣(名古屋大学)

4. 色素異常症の動物モデルとしての鳥類色素
変異体における遺伝子解析
秋山豊子(慶應義塾大学)

5. 鳥インフルエンザウイルスのヒトへの適応
性獲得の分子基礎
鈴木康夫(中部大学)

6. Micro-Computed Tomography (micro-CT)
による軟組織高速イメージング
田村 勝(理化学研究所)

【遺伝子導入システムの開発と応用】 座長：
高橋 智(筑波大学)・佐藤有紀(熊本大学)

7. トランスジェニックニワトリの作製・応用
とその問題点
飯島信司(名古屋大学)

8. 鳥類多能性幹細胞の遺伝子改変技術の現状
とこれから
堀内浩幸(広島大学)

9. CRISPR/Cas9 人工制限酵素システムを用
いたマウスゲノム編集
伊川正人(大阪大学)

第3回シンポジウム

ブタがもたらす未来医療—移植・再生医学への
応用をめざして—

日時：平成 26 年 12 月 12 日(金)13:00 ~17:40
会場：山形テルサ

主催：公益社団法人 日本実験動物学会
東北動物実験研究会

参加費：無料

オーガナイザー：國田 智(自治医科大学)・
浅野雅秀(金沢大学)・大和田一雄(山形大学)
合同懇親会：ホテルメトロポリタン山形

事前登録が必要

参加登録：第 25 回東北動物実験研究会事務局
プログラム

【挨拶】 浦野 徹(公益社団法人日本実験動物
学会 理事長)

【ブタ幹細胞・遺伝子改変技術】

1. ブタを利用する iPS 細胞研究：マウスから
ヒトへの橋渡し
花園 豊(自治医科大 分子病態治療研究
センター)

2. ゲノム編集技術を用いた遺伝子改変ブタの
作製

長嶋比呂志(明治大学農学部)

3. 免疫不全豚の開発

大西 彰(日本大学生物資源科学部)

【ヒト化組織・臓器作製技術】

4. ブタの胚盤胞補完による臓器再生研究の現状
松成ひとみ(明治大学バイオリソース研究
国際インスティテュート)

5. 組織工学・再生医療用足場材料としての脱細
胞化ブタ組織
岸田晶夫(東京医科歯科大学生体材料工学
研究所)

【臨床応用モデル】

6. iPS 細胞を用いた心不全治療の現状と展望
藤田 淳(慶應義塾大学医学部)

7. ブタモデルによる軟骨・半月板再生医療の前
臨床試験
関矢一郎(東京医科歯科大学再生医療研究
センター)

第4回シンポジウム (案)

新たな疾患モデル動物が切り開く橋渡し研究

日時：平成 27 年 12 月 11 日(金)13:00~18:00
会場：加計学園 50 周年記念館ホール(岡山理科
大学)

主催：公益社団法人 日本実験動物学会
岡山実験動物研究会

後援：岡山理科大学

参加費：無料

交流会：岡山理科大学 11 号館 8 階サロン
18:00~20:00

第4回シンポジウムの企画は岡山理科大学の織
田銃一先生・愛甲博美先生・城ヶ原貴通先生が中
心になって日本実験動物学会学術集会委員会(委
員長：浅野雅秀教授、京都大学・実験動物研究施
設)と打ち合わせを行いながら、検討が進められ
ております。

企画が確定した段階で、会員の皆様にご案内致
します。